

島津秀典教授略歴および主要研究業績

略歴

- 一九四〇年（昭和十五年）一月一日 大阪府吹田市に生まれる
- 一九六五年（昭和四〇年）三月 大阪市立大学経済学部卒業
- 一九六五年（昭和四〇年）四月 大阪市立大学大学院経済学研究科（修士課程）入学
- 一九六七年（昭和四二年）三月 大阪市立大学大学院経済学研究科（修士課程）修了
- 一九六七年（昭和四二年）三月 経済学修士（大阪市立大学）
- 一九六七年（昭和四二年）四月 大阪市立大学大学院経済学研究科（博士課程）進学
- 一九六九年（昭和四四年）三月 大阪市立大学大学院経済学研究科（博士課程）中途退学
- 一九六九年（昭和四四年）四月 立命館大学経済学部助手
- 一九七一年（昭和四六年）四月 立命館大学経済学部助教授
- 一九七六年（昭和五一年）四月 高知大学文学部助教授
- 一九七七年（昭和五二年）五月 高知大学人文学部助教授
- 一九七九年（昭和五四年）四月 高知大学人文学部教授
- 一九八四年（昭和五九年）四月 三重大学人文学部教授（現在に至る）

所属学会

一九六七年（昭和四二年）一〇月 経済理論学会（現在に至る）
一九八二年（昭和五七年）一〇月 経済学教育学会（現在に至る）

社会活動

一九九七年度～一九九八年度 三重県ごみ減量化・再生利用推進会議委員会（副委員長）
一九九八年度 三重県資源ごみ分別収集促進検討委員会

主要研究業績

著書

経済原論（共編著）	青木書店	一九八二年	四月
現代日本経済論（共編著）	青木書店	一九八八年	四月

論文

経済学の対象としての国家

—「国家の形態でのブルジョア社会の総括」についての分析のため

の方法的一試論—

『経済学雑誌』第五七卷第四号 一九六七年一〇月

いわゆる社会資本について

—国家資本範疇との関連において—

『経済学雑誌』第五九卷第一号 一九六八年 七月

『帝国主義論』の方法についての一考察

—『帝国主義論』における展開と分析—『立命館経済学』第一九卷第二号 一九七〇年 六月

『帝国主義論』における段階規定

—『資本論』から『帝国主義論』への発展と関連して—

『立命館経済学』第一九卷第六号 一九七一年 二月

マルクス主義経済学と国家の理論

—ブルジョア社会の「総括」を中心に—

(小谷義次他編『国家と財政の理論』青木書店) 一九七三年一〇月

国家資本といわゆる社会資本

(小谷義次編『国家資本の理論』大月書店) 一九七四年一〇月

国家論の課題と経済学の方法

—「社会的共同業務」・『資本論』・「国家の形態でのブルジョア

社会の総括」—

『現代と思想』第三四号 一九七八年一二月

インフレーションと資本蓄積・過剰生産恐慌との相互連関についての

考察(上)

―わが国の一九七四―五年恐慌と「スタグフレーション」過程を素材として―

材として―

『高知論叢』第二二号 一九八一年二月

インフレーションと資本蓄積・過剰生産恐慌との相互連関についての

考察(下)

―わが国の一九七四―五年恐慌と「スタグフレーション」過程を素材として―

材として―

『高知論叢』第一三号 一九八二年三月

『資本論』体系における利潤率範疇と利潤率の傾向的低下の法則

―J・M・ギルマン『利潤率低下』の批判的検討にもとづく方法論

的一考察―

『高知論叢』第一五号 一九八二年二月

現代日本経済の理論的分析のための覚書(その一)

―設備投資・技術革新・産業構造の転換―

『法経論叢』第二卷第一号 一九八四年十二月

現代日本経済の理論的分析のための覚書(その二)

―企業金融・財政危機・金融市場―

『法経論叢』第二卷第二号 一九八五年三月

現代日本経済の理論的分析のための覚書(その三)

―金融自由化と「財政再建」―

『法経論叢』第三卷第一号 一九八五年十一月

現代日本経済の国際化についての一考察(一)

―経済摩擦・対外純資産・為替調整―

『法経論叢』第五卷第一号 一九八七年十一月

国際経済（小谷義次他編『マルクス・ケインズ・シュムペーター』大月書店）一九九一年 二月

一九八〇年代前半の日本経済と銀行資本の蓄積動向

『法経論叢』第一〇卷第一号 一九九二年 八月

一九八〇年代前半の日本経済と銀行経営

（下平尾勲他編『社会科学と人文の諸問題』新東洋出版社）一九九五年 四月

資本主義の「国際化」と「国民経済」との対立・矛盾についての

一考察（一）

―現代日本経済の「国際競争力」と日本的経営・財政危機・プラザ

合意―

『法経論叢』第一五卷第二号 一九九八年 二月

資本主義の「国際化」と「国民経済」との対立・矛盾についての

一考察（二）

―プラザ合意・円高不況とバブル経済の発生・展開・崩壊―

『法経論叢』第一六卷第二号 一九九九年 三月

バブル経済の崩壊と九〇年代不況・異常円高

―資本主義の「国際化」と「国民経済」との対立・矛盾の観点から―

『立命館経済学』第四八卷第五号 一九九九年十二月

資本主義の「国際化」と「国民経済」との対立・矛盾についての

一考察(三・完)

―住専・不良債権・異常円高・産業と雇用の空洞化―

『法経論叢』第一七卷第二号 二〇〇〇年 二月

現実分析から理論認識への発展

―専門演習における経済学教育の方法― 『法経論叢』第一九卷第二号 二〇〇二年 三月

バブル経済崩壊後の金融破綻・財政危機とその政策対応(上)

『法経論叢』第二〇卷第二号 二〇〇三年 二月

バブル経済崩壊後の金融破綻・財政危機とその政策対応(下)

『法経論叢』第二一巻第一号 二〇〇三年 八月

その他

ソヴェト経済学者による(剰余価値率)算定の試みについて(翻訳協力)

(小谷義次『アメリカ資本主義と貧困化理論』新日本出版社) 一九七一年 八月

『資本論』の方法と『帝国主義論』の方法(解説)

(『見田石介著作集』第三巻「資本論の方法I」大月書店) 一九七六年一二月

『資本論』体系と国家範疇

―「国家の形態でのブルジョア社会の総括」分析のための方法的―

考察―(学会報告、経済理論学会編『現代資本主義と国家』経済理

論学会年報第一七集所収)

一九八〇年 九月

高知市の卸売業の分析

『高知地域商業近代化地域計画報告書』第Ⅲ部第四章第二節一、四

(高知商工会議所)

一九八一年 四月

いかにして学生の問題意識をひきだすか

―「対話」と「参加」の講義をめざして―

(学会報告、経済学教育学会編『経済学教育』第八号所収)

一九八八年 一月